

第1分科会（教育相談）

「特別支援学校等アセスメント事業」 による学校支援

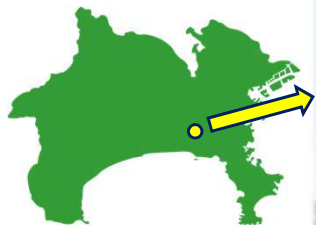
神奈川県立総合教育センター
指導主事 高木 正樹

○各自治体での学校支援の取組について、ご紹介ください。
・テーマに沿って、「高等学校における特別支援教育」への支援について、お願いいたします。



1 はじめに

神奈川県立総合教育センターの概要



神奈川県藤沢市善行7丁目1-1
0466-81-1582（学校教育支援課）
<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/>

『グッタ』
総合教育センターのキャラクター

地図出典：国土地理院「基盤地図情報データ」をもとに神奈川県が作成したものを編集・加工

1 はじめに

神奈川県立総合教育センターの概要

ミライを育てる

基本コンセプト

かながわの教育力向上のため、「教育人材育成」と「学校支援」の総合的な拠点として、また、かながわの教育におけるシンクタンクとして、多彩な人材からなる組織の力をいかし、質の高い研修・調査研究・教育相談を行う。

三つの柱

研修

高い指導力と意欲を持つ
人材の確保から育成まで
の一貫した取組

調査研究

今日的な教育課題に対応し、
教育施策を先導する
全所的な調査研究

教育相談

多様で専門的な人材を駆使した
教育相談及び
インクルーシブ教育の推進



2 特別支援学校等アセスメント事業について (1) アセスメント事業の変遷

○特別支援学校等アセスメント事業とは

- ・対象は、県立特別支援学校高等部及び県立高等学校インクルーシブ教育実践推進校等の生徒。
- ・一人ひとりの教育計画作成や進路指導に対する支援として、**学校の依頼を受け**、作業、認知、行動の特性等を諸検査でアセスメントする。
- ・アセスメントは、依頼された評価項目を踏まえて、**作業検査、心理検査、言語検査、運動・操作性検査等**により実施する。
- ・結果及び支援方法について、ケース会議や結果票で提供する。

5

2 特別支援学校等アセスメント事業について (1) アセスメント事業の変遷

○アセスメント事業の対象校

- ・平成5年度から実施
→神奈川県立特別支援学校等 29校
- ・平成29年度から実施
→インクルーシブ教育実践推進校 14校 ※令和5年度現在
(その他の県立高等学校 121校)

6

2 特別支援学校等アセスメント事業について (1) アセスメント事業の変遷

○インクルーシブ教育実践推進校とは

- ・神奈川県立高校における、新しい学びのかたちの学校の一つ。
- ・知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会を広げながら、全ての生徒が共に学び相互に理解を深める教育に取り組む学校。
- ・1学年に、21名の特別募集を実施。
- ・平成29年度より、パイロット校3校の取組が開始。
令和2年度より、新たに11校の取組が開始。
令和6年度より、さらに4校の取組が開始予定。

7

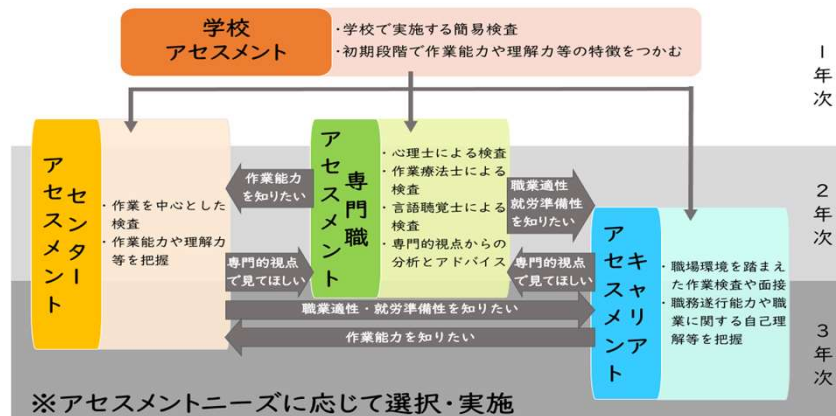
2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~概要~

- ・会場を基に大別すると、二つに分類できる。
- ・学校からの相談・依頼の上、各アセスメントを実施する。

会場	名称	目的
各学校	学校アセスメント	学校が行うアセスメントに対して、学校のニーズに応じた物的・人的資源の提供等により、支援を行う。
センター	センターアセスメント	指導主事の視点、専門職の視点という様々な視点から生徒の特性を把握し、生徒の全体像を捉え、今後の指導や支援の手立てを提供する。
	専門職アセスメント ※学校で実施する場合あり	専門職(心理士・言語聴覚士・作業療法士)の視点から検査を通じて生徒の特性を把握し、保護者との面談の情報も参考にして、今後の指導や支援の手立てを提供する。
	キャリアアセスメント	進路支援として、職務遂行能力等の就労準備性、作業に関するセルフマネジメント、職業に関する自己理解の状況等の評価を提供する。

8

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~活用例~



9

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~検査室の例~

作業検査室



個別検査室



10

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~学校アセスメント~

○当センターの役割

- ・学校が実施するアセスメント(作業検査)の道具の貸出しと管理
- ・学校での実施に関する助言等

○指導主事等派遣の場合(派遣がない場合もある)

- ・当日の運営サポート
- ・1~3名の対象生徒への参与観察
- ・ケース会議への参加

作業検査内容 (学校側が選んで実施)
ボールペン分解検査
ボールペン組立検査
はさみ検査
ペグの両手差し込み検査
ペグの片手差し替え検査
タッピング検査
握力検査
ボール投げ検査
伝票処理検査

学校アセスメントにおける作業検査

ワークサンプルや当センターの過去の研究などを基にした様々な作業検査の中から、学校で教員が実施・運営しやすいものをピックアップしたものを。

11

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~センターアセスメント~

○構成

- ・指導主事等による作業検査と行動観察
- ・専門職による個別検査と行動観察、保護者面談
- ・教員と検査者によるケース会議

指導主事等による作業検査

センターの過去の研究やワークサンプルなどを基にした様々な作業検査を、依頼内容に合わせて実施する。作業の達成の可否だけでなく、作業中の様子や指示の理解、検査者の働き掛けの違いに対する反応の変化なども含めて、観察や評価をする。

タイムスケジュールの例

時間	内容
9:00	来所
9:15	オリエンテーション、着替え
9:30	全体の作業検査の観察
10:05	専門職による個別検査
11:15	専門職による保護者面談 個別の作業検査
11:45	昼食・休憩
12:45	個別の作業検査
14:25	着替え
14:30	生徒と保護者退所
15:00	ケース会議
15:45	終了

12

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~専門職アセスメント~

○構成

- ・専門職による個別検査と行動観察、保護者面談
- ・教員と検査者によるケース会議

※心理士・作業療法士・言語聴覚士それぞれの専門職の検査に特化した内容を実施し、学校のより専門的なニーズに対応。

時間	内容
8:45	来所
9:00	オリエンテーション
9:05	作業課題の行動観察
9:30	専門職による個別検査
10:40	専門職による保護者面談
11:10	生徒と保護者退所
11:15	ケース会議
12:00	終了

13

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~キャリアアセスメント~

○構成

- ・指導主事等による作業検査と行動観察
 - ・受検生徒との面接(検査前、検査後)
 - ・教員と検査者による面談
- 企業の雇用環境(職種、職場環境)を踏まえた作業検査や行動観察を通して、生徒の職務遂行能力等の就労準備性等を評価する。

指導主事等による作業検査

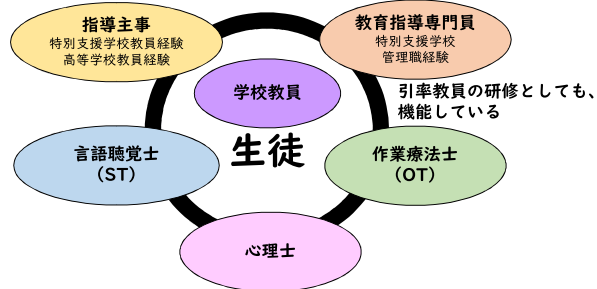
「ワークサンプル幕張版(障害者職業総合センター)」の内容を一部アレンジしたものを。

時間	内容
8:45	来所
9:00	面接1
9:15	朝礼
9:30	OA作業 数値入力・文書入力 コピー&ペースト
10:40	物品請求書作成 プラグ・タップ組立
11:50	昼食・休憩
12:50	ナプキン折り・重さ計測 数値チェック
14:00	ピッキング
15:10	休憩
15:30	面接2・教員面談
15:45	終了

14

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~協働体制~

- ・センターアセスメントは、指導主事等と専門職の協働で実施。
- ・専門性や経験に基づいて、受検者の見立てや支援を共に検討。



15

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~結果票1~

- ・検査日の約1か月後に、結果や所見を記した結果票を提供。
- ・以下は、センターアセスメントの「結果票1」の例の一部である。

アセスメント検査結果

項目	検査種目	観 点	記録	ミス	質	備考
手指 手腕	タッピング(1分間)	手首の動き、つまみ方、持続・疲労度	310回			◎
	M(ベグ両手差し込み)	同時動作、協応、手順・位置の理解	64本			◎
	N(ベグ片手差し替え)	巧緻性、手順・位置の理解、計数	55本			○
運動	ボール投げ	身体の使い方(重心、スナップ、ひねり)	右10.5m			
	自転車のペダル踏み(1分間)	脚力、敏捷性、疲労度、指示理解	87回	1回		
判断	部品分類10種(見本なし)	形状・大小判別、位置の記憶、注意持続	8分7秒	11個		D
	ひも掛け	見通し(連続的予測・判断)、身のこなし	1分38秒	0ヶ所		
	カード分類(色・記号・数字4桁)	複合条件による照合判断	10分24秒	0枚		A
道具	丸型切り抜き(はさみ)	はさみの動かし方、作業の丁寧さ	1分13秒			B
	星型切り抜き(はさみ)	はさみの動かし方、作業の丁寧さ	1分42秒			C

16

2 特別支援学校等アセスメント事業について (2) 四つのアセスメントプログラム ~結果票2~

- ・検査日の約1か月後に、結果や所見を記した結果票を提供。
- ・以下は、センターアセスメントの「結果票2」の例の一部である。

I 作業検査所見

1. 心理的な安定について (意欲、情緒の安定、変化への対応、持続等)

- ①新しい場面では周りの様子を見てから行動するなど、表情もやや硬く自信のなさがかうかがえますが、場面や人に慣れると、やり取りも円滑になり、笑顔での受け応えも増えます。
- ②すべての検査に集中して取り組み、アドバイスの聞き入れも良好で、大変真面目な作業態度です。

2. 人間関係の形成・コミュニケーションについて (他者とのかかわり、行動の調整、集団への参加、言語の理解・表出等)

- ①あいさつや返事、報告、質問等、小さな声ではありますが、しっかりと相手に伝えることができます。
- ②全体教示者の指示には周りの動きを確認することもあります。個別の指示への対応は迷う様子もなく確実です。
- ③全体教示者の「道具を取りに来てください」「立ってください」「イスを後ろに押してください」等の指示後、周りの様子をうかがい、友だちも動くのを確認してから自身も行動を開始しました。一方で、個別に行った部品分類検査での「10枚のトレーを6枚と〜」

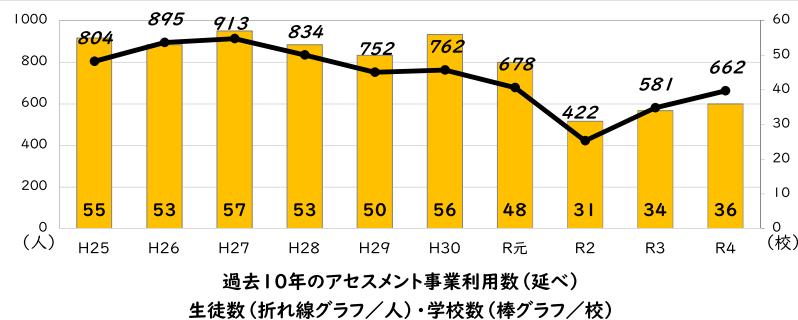
III 支援の手立て

- ・事前の情報提供 (例: 「何をやるのか」「どうやってやるのか」) や、モデル (手本)、指示書等の活用が、初めての課題でも自信を持って取り組むことにつながります。

17

2 特別支援学校等アセスメント事業について (3) アセスメント事業の利用実績と課題 ~利用(概要)~

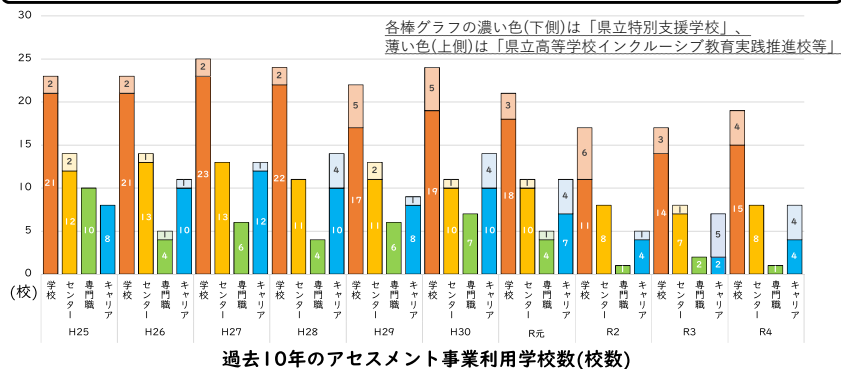
- ・アセスメント事業の利用学校数及び生徒数。
- ・令和2年度の利用件数の減少は、令和3年度以降回復傾向にある。



18

2 特別支援学校等アセスメント事業について (3) アセスメント事業の利用実績と課題 ~利用(学校数)~

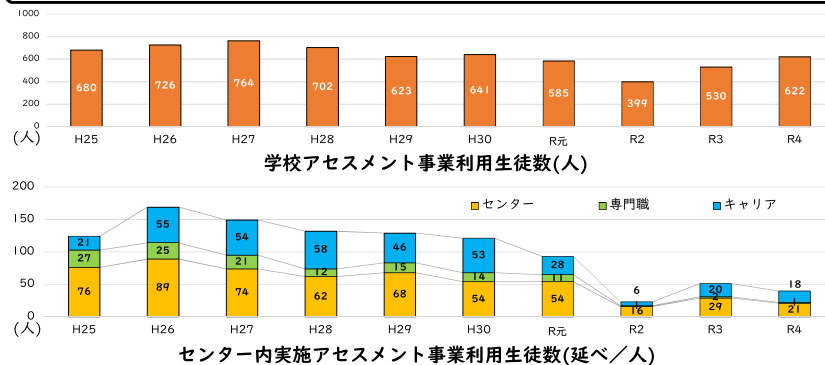
- ・アセスメントごとの利用学校数。



19

2 特別支援学校等アセスメント事業について (3) アセスメント事業の利用実績と課題 ~利用(生徒数)~

- ・アセスメントごとの利用生徒数。



20

2 特別支援学校等アセスメント事業について (3) アセスメント事業の利用実績と課題 ～課題～

○学校のニーズは、より多様化・複雑化している。

- ・外国につながる生徒のアセスメント依頼。
- ・高等学校の定時制や通信制等からの相談ケース。
- ・教員の多忙化等の理由により、アセスメント事業の利用がしづらいのではないか。
- ・インクルーシブ教育実践推進校(高等学校)においては、特別支援学校との職員体制の相違点、受検日程調整の難しさ、引率の負担等、アセスメント事業が利用されづらい面があるのではないか。

21

3 今後に向けて

○インクルーシブ教育実践推進に関する研究

- ・インクルーシブ教育実践推進校のアセスメント利用促進のため、キャリアアセスメントの改善を図る。

インクルーシブ教育実践推進校
(令和6年度より18校)



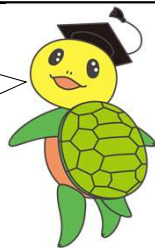
22

質疑応答に向けて

○各自治体での学校支援の取組について、ご紹介ください。

- ・テーマに沿って、「高等学校における特別支援教育」への支援について、お願いいたします。

ご清聴ありがとうございました!



23